

授業改善書

科目名	マクロ経済学
担当者	黒沢義孝

授業の概要

GDP（国内総生産）、インフレ/デフレ、財政政策、金融政策などの基礎知識について講義し、アベノミクスによる日本経済 / トランプ大統領が進める米国の経済 / 低金利が続く金融の問題 / EU・新興国・アセアン諸国などの現実の経済問題について経済学の原理や手法を使って分かり易く板書と解説を行なった。

授業の問題点

(1) 経済問題や金融問題を中心とするマクロ経済学を理解するためには簡単な数学や統計学を必要とするがほとんどの学生が数学・統計学の基礎知識を持っていないので講義の内容が理論的というよりも感覚的な理解に片寄りがちになってしまうという問題がある。(2) 毎授業において遅刻者が3～5名程度いるが授業の最初にその日の講義の進め方や前回講義との関連性を説明するので遅刻者は講義の内容をあまり理解できていないことと、遅刻者の入室によってその度に授業が短い時間中断されるため他の学生の迷惑にもなっている。一方、3分の一程度の受講生は予習・復習も含めてかなりよく勉強しマクロ経済学の授業の内容をよく理解している。

学生の授業満足度

(1) 予習や復習、授業中の質問についてはまだまだ不十分などところがあるが、教科書とは別に講義概要のテキストを作成して前以て学生に配布しているのも真面目に勉強している学生にとっては理解を深めるための補助教材として受講生は満足していると思う。(2) 毎回授業を始める前にその日に行う授業の要点を短い言葉で説明しているので授業がどのように進んでいるかについて学生には分かり易く満足のものになっていると思われる。(3) 授業の最後に10～15分を使ってその日の授業をどの程度理解しているかをテストするためのミニットペーパー（米国ハーバード大学の方式）を書かせているので学生は頭の整理にもなり授業の中で何が大事な点かを把握できるので受講生には喜ばれていると思う。

授業改善の課題と方策

授業に対する学生の理解度を高めるために予習と復習、あるいはそのうちのどちらかを行うようにさせたいと思い色々工夫をしているが良い方策が見つかっていない。当面は上記のミニットペーパーを用いて授業内容の理解度を高め、予習・復習を行うための意欲を高めるように努めたい。

その他

マクロ経済学では図表やグラフを多用し、エクセルを使った演習が役に立つと思うが教室にプロジェクターなどの設備がないので十分な効果をあげられない。教育投資として教室に学生も使える備え付けのラップトップPCが設置が必要であると思う。